

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第17週（4月20日～4月26日）

今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 さらに増加」

第17週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,943例であり、前週比11.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.85、2.97、0.58、0.49、0.30である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比10%増の1,070例で、北河内10.36、南河内7.20、三島7.12、中河内6.89、大阪市西部5.50であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の543例で、北河内5.18、中河内4.11、泉州3.70である。

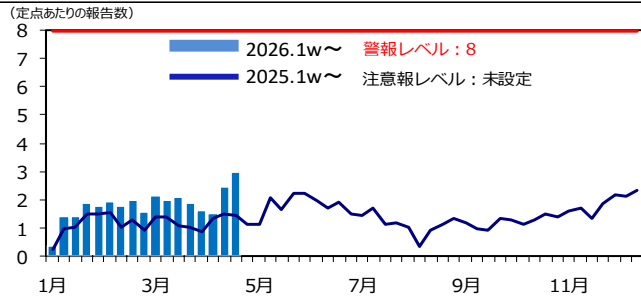
RSウイルス感染症は25%減の107例で、北河内1.50、大阪市北部1.38、大阪市西部0.80であった。

咽頭結膜熱は61%増の90例で、中河内1.16、大阪市西部0.90、南河内0.73である。

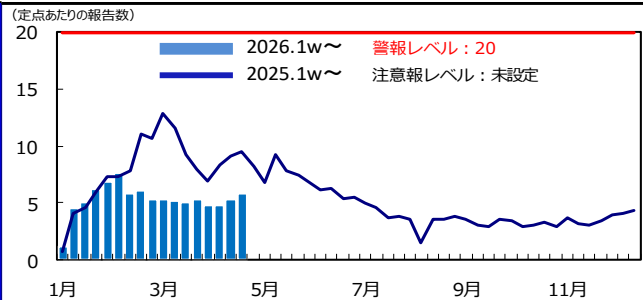
新型コロナウイルス感染症は12%増の112例で、定点あたり報告数は0.39であった。南河内0.70、中河内0.48、北河内0.47、大阪市東部0.45、泉州0.42である。

急性呼吸器感染症（ARI）は11%増の11,385例で、定点あたり報告数は39.67であった。南河内55.00、中河内48.41、堺市47.24、北河内46.78、大阪市北部39.95である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第17週4月20日～4月26日）

| 第17週の順位 | 第16週の順位 | 感染症 | 2026年 第17週の 定点あたり 報告数 | 前週比 増減 | 2025年 第17週の 定点あたり 報告数 | 2026年第17週の 年齢別 患者発生数 最大割合 |
|---------|---------|----------------------------------|-----------------------|--------|-----------------------|---------------------------|
| 1 | 1 | 感染性胃腸炎 | 5.85 | 10%増 | 9.43 | 1歳_21% |
| 2 | 2 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 2.97 | 19%増 | 1.44 | 5歳_16% |
| 3 | 3 | RSウイルス感染症 | 0.58 | 25%減 | 0.90 | 1歳未満_39% |
| 4 | 4 | 咽頭結膜熱 | 0.49 | 61%増 | 0.45 | 1歳_30% |
| 5 | 6 | 突発性発しん | 0.30 | 38%増 | 0.32 | 1歳_54% |
| 参考 | | 新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患) | 0.39 | 12%増 | 1.02 | 5-9歳_25% |
| 参考 | | 急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患) | 39.67 | 11%増 | 42.65 | 1-4歳_41% |

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

第17週のコメント

～麻しん～ 大阪府では、2026年第17週現在、14例が報告されている。ワクチンで予防可能な感染症です。

| 全数把握感染症 | |
|---|--|
| 麻しん | |
| <p>麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。2026年の麻しんの報告は、インドネシアなど近年麻しんが流行している国への海外渡航者による輸入症例以外に、国内感染例の増加が認められている。症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。</p> <p>麻しん（国立健康危機管理研究機構）</p> <p>麻しん情報（大阪府感染症情報センター）</p> | <p style="text-align: center;">年別累積報告数（大阪府）</p> |

表2. 大阪府全数報告数（2026年 第17週4月20日～4月26日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

| | 疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略 | 報告数 | 豊能 | 三島 | 北河内 | 中河内 | 南河内 | 堺市 | 泉州 | 大阪市 | 府内累積報告数 |
|-------|---|---|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|---------|
| | | | | | | | | | | | |
| 5類感染症 | ウイルス性肝炎 | 1 | | | | | | | | 1 | 8 |
| | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 2 | | | | 1 | | | | 1 | 39 |
| | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 2 | | | | | 1 | | | 1 | 30 |
| | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 1 | 1 | | | | | | | | 15 |
| | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 3 | | | 1 | 1 | | | | 1 | 92 |
| | 水痘（入院例） | 1 | | | | | | | | 1 | 19 |
| | 多剤耐性緑膿菌感染症 | 2 | | | | | | | | 2 | 4 |
| | 梅毒 | 12 | 1 | 1 | 2 | | 1 | | | 7 | 362 |
| | 播種性クリプトコックス症 | 1 | | 1 | | | | | | | 5 |
| | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | 1 | 1 | | | | | | | | 5 |
| | 百日咳 | 6 | | | | 2 | 1 | | 2 | 1 | 124 |
| | 麻しん | 1 | | | | | | | | 1 | 14 |
| | 結核 (2026年2月分) | 結核 新登録患者数：56名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 149名、内 肺・喀痰塗抹陽性 56名) | | | | | | | | | |

(2026年4月28日 集計分)